

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

広島市立三和中学校

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成 21 年 4 月 21 日 (火)

3 調査実施学校数 (公立学校) 等

区 分	調査実施校数 (校)			調査実施者数 (人)			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第 6 学年	21,482	545	140	1,137,844	26,002	10,870	—
中学校第 3 学年	9,851	247	64	1,033,909	23,033	9,025	243

4 調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題 [A問題]

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題 [B問題]

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率

【小学校】

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
69.9	72.9	71.9	—	50.5	53.8	53.2	—	78.7	81.3	80.7	—	54.8	56.6	57.1	—

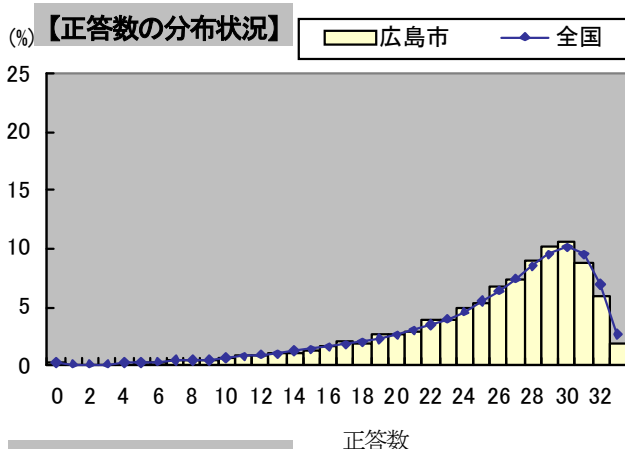
【中学校】

国語								数学							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
77.0	77.6	76.6	75.0	74.5	74.8	73.7	71.0	62.7	62.9	62.3	61.6	56.9	56.2	55.1	54.0

6 各教科の調査結果の概要

【中学校国語】

国語A



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	86.8	86.5	86.4
書くこと	64.6	64.8	59.2
読むこと	75.7	75.2	76.2
言語事項	76.0	75.6	72.3

【問題形式による定着状況】

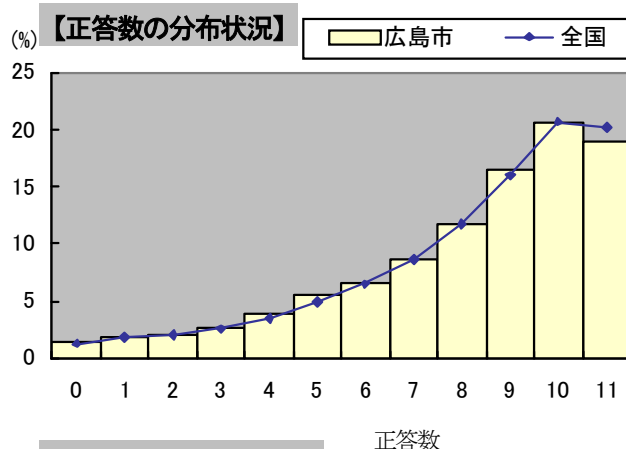
問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.0	75.8	74.0
短答式	78.4	77.7	76.0
記述式	—	—	—

定着状況

○国語Aにおいて、「読むこと」(76.3%)は全国・市平均をともに上回っており、「話すこと・聞くこと」(86.4%)もほぼ、全国・市平均並みである。一方「言語事項」(72.3%)は、全国・市平均に届いていない。

○国語Bにおいて、「読むこと」(71.0%)「書くこと」(67.3%)は全国・市平均をともに大きく下回っている。

国語B



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	72.5	71.5	67.3
読むこと	74.5	73.7	71.0
言語事項	—	—	—

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	70.2	69.9	68.6
短答式	82.0	81.0	79.4
記述式	72.5	71.5	67.3

課題

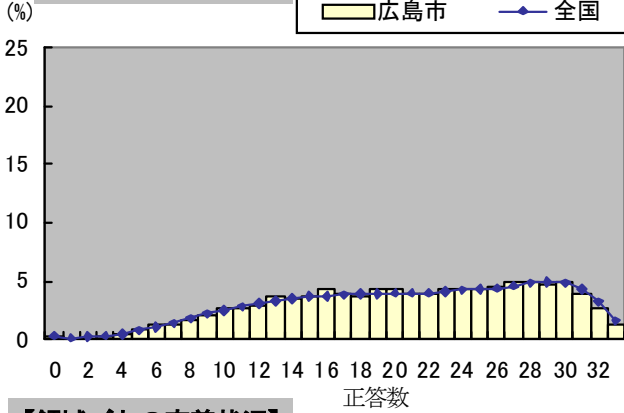
○「書くこと」において、自分の文章に説得力を持たせたり、資料を効果的に取り入れる力が十分でない。

○「言語事項」において、基本的な漢字・語句の知識が十分でない。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	67.3	66.7	66.3
図形	64.6	64.4	65.9
数量関係	56.2	55.8	52.7

【問題形式による定着状況】

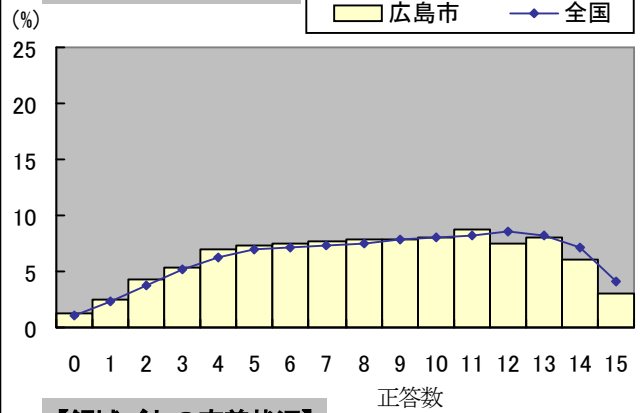
問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	60.5	60.2	59.7
短答式	66.1	65.5	64.5
記述式	—	—	—

定着状況

- 数量関係領域の基本的な問題、特に反比例・一次関数に関する正答率が低い。
- 問題文を読み取り、数学的な考え方をを用いて問題解決することや、説明することができていない。
-

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	61.4	58.5	57.8
図形	57.5	56.1	56.0
数量関係	54.1	52.4	50.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	61.6	59.8	56.7
短答式	70.3	69.8	70.5
記述式	40.6	37.7	37.5

課題

- 比例・反比例・一次関数の表・式・グラフの関連について、一層の理解を図り、基本的な問題ができるようにする。
- 総合（複合）問題の演習機会を増やして、問題の意図を読み取り、自力で解決する能力をつける。

全国学力・学習状況調査の結果に基づく指導方法等の改善計画

広島市立三和 中学校

全国学力・学習状況調査 正答率

〔A：主として知識〕 〔B：主として活用〕

	国語A	国語B	数学A	数学B
学 校 (%)	75.0	71.0	61.6	54.0
広島市 (%)	76.6	73.7	62.3	55.1
広島県 (%)	77.6	74.8	62.9	56.2

	主な課題	要 因
国 語	①「書くこと」において、自分の文章に説得力を持たせたり、資料を効果的に取り入れる力が十分でない。 ②「言語事項」において、基本的な漢字・語句の知識が十分でない。	①自分の考えを持つことができなかつたり、それをまとめて論理的に記述することができないことが考えられる。 ②基本的な漢字・語句の意味の習得だけでなく、文脈の中で適切に使うことができないことが考えられる。
	＜課題解決に向けた国語科における具体的実践＞	
	①自分の考えを箇条書きにして整理させ、論旨を明確に表現する学習活動を取り入れることで、論理的思考力をつけていく。 ②二百字帳による漢字練習・漢字テストを継続していくとともに、言語ドリルを取り入れることで、知識の習得を図る。	

	主な課題	要 因
数 学	① 図形領域の正答率に比べて、数量関係領域の正答率が低い。 ② 文字式が十分に理解できていない。	○普通の学習でも、比例・反比例・一次関数と学習が進むにつれて、苦手と感じる生徒が増加していく傾向がある ○計算に習熟できていない生徒にとって、表やグラフをもとに表すことを苦手としていて、式で表すことが、相当困難になっていると考えられる。
	＜課題解決に向けた数学科における具体的実践＞	
	① 小学校における数量関係領域の学習内容を検討し、日常の場面と関連付けて、より具体的な事象から数量関係を見いだせるような指導の流れを工夫する。 ② 教材・教具を増やして、作業する場面、視覚で理解できる場面をつくり、納得できる授業を構成する。 ③ いくつかの複合的な事象が含まれた問題（総合問題）の練習機会を増やして、問題の意図を読み取る力をつける。	

学力向上へ向けた全校的な取組（課題解決に向けた具体的実践）

- ①意図的に協同的な学習を仕組み、思考力・判断力・表現力を育成するために、発表の仕方や聞く態度等の指導を行い、授業規律の確立を図る。
- ②主述の整った言い方で、順序立てて話したり書いたりできるよう、あらゆる機会を通じて指導する。
- ③基本的な漢字や語句等の語彙力を育成するために、全教科を通じて指導する。